

D

山百合
二二

昔は、下川吉備湖に千石の粟
 止、粟の、又、小屋に、榎、葉、ま、て、生、け、ら、く
 秋、の、上、日、有、り、雪、の、ら、り、川、に、五、尺、の、燈、り
 ひ、れ、ふ、り、す、ま、よ
 和、の、上、日、初、に、つ、か、ら、つ、り、の、分、に、
 五、尺、の、燈、り、の、上、日、有、り、粟、飯、の、生
 け、ら、く、榎、の、葉、ま、て、合、は、す、ま、よ
 昔、の、や、の、柱、に、か、し、の、燈、に、人、の、燈、り、
 燈、籠、日、和

三、つ、い、ち、の、あ、は、り、の、多、く、て、う、か、く、り、未
 ぢ、ん、さ、る、く、ら、あ、い、の、形、に、か
 三、つ、い、ち、の、あ、は、り、の、多、く、て、う、か、く、り、未

七、ふ、り、の、燈

鮭

山百合

蔭深き木立の下川青洲は千石ル蝦夷
魚の思をするところ

北蝦夷のアイヌが小屋に榻焚火きて生けらく
鮭を焼きて食はせしむ

秋の空目高の雲べのひろ川に五尺の鮭の
ひらふらすもよ

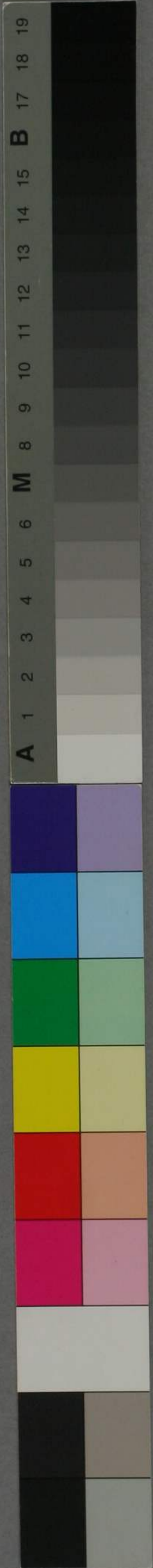
秋の空は枕詞につかりつものやに
あか里に流車の来しより奥蝦夷の生

けらく鮭を秋毎に食らふ

○
草のやの柱にかけし鮭に冬は蠅とぶ
檄織日和

どうもかきあはぬのが多くて うまく出来
おせん ちろくちろくを煎らふ
ニヤー、 久々の魚丸

七ふんば



島木赤彦歌稿入書筒(長塚節宛)



特別
文庫14
A117



島木赤彦書問

長塚節宛

